

森林塾

青水

塾長

清水英毅

” コモンズ村・ふじわらの入会権を 持ちませんか

利根川源流域の元・入会山を舞台に、茅場としてのススキ草原再生と古道の復元などを通して、現代版入会「日本型」モンズづくりを目指す取り組みが始まっています。合言葉は「飲水思源」。あなたも参加して、楽しい汗かいてみませんか。

雪・過疎の地です。

かつての入会山を
無償で借り受け、利用・管理

首都圏の水ガメ「利根川」が、その源を発する群馬県利根郡みなかみ町。我々の「コモンズ村・ふじわら」は、その最奥部・藤原区上の原地区に形成されつつあります。元は200ha余りもあった入会山の一部(21ha)の町有林で、上州武尊山の山懐、標高1050mから1200mに位置する典型的豪

雪・過疎の地です。総面積の半分が、今や全国的にも稀少となったススキ草原で、昔は集落の人々の茅刈り場でした。残り半分はミズナラやカエデの二次林で、炭焼きの石窯や木馬道の跡があります。暮らしてに密着した入会地として役立ってきましたが、戦後の燃料革命や住宅革命のあおりを受け、やがてその大方がゴルフ場や別荘地に姿を変え、残りのわずかに1/10程度が町有地として森林

化が進む中、かろうじて入会山としての面影をとどめていたという次第。

そんな折、縁あってこの町有地を森林塾青水が町から無償で借り受

け、利用・管理を委ねられることになりました。平成15年4月に契約、まずは藤原集落の地域資源調査や入会の歴史のヒアリングから着手。ススキ草原の植生調査やミズナラ林の毎木調査も行ない、フィールド整備構想や地域資源活用計画を策定しました。(別表参照)

ススキ草原の整備と
散策路づくり

永年にわたり放置されていたススキ草原は、往年の元気なススキにはほど遠い状態でした。ススキ草原の整備は、タニウツギやシラカバなど侵入雑木の伐採から始めました。森林化率が15%にも及んでおり、健全な茅場としての植生回

復にはこれが不可欠だったからです。次に地元・古老の皆さんの指導を得て茅刈りを試みました。

そして、いよいよ火入れ「野焼き」。これはなかなか大変でした。地元や町当局と何度も話し合い、近隣住民の承諾も得て、火入れ条例をクリア。平成16年4月、およそ40年ぶりの野焼きが復活しました。周囲の残雪を防火帯とする当地固有の火入れ。白銀に赤い炎。そして紺碧の空。地元、町役場、写真愛好家と我々市民団体など総勢80余名が、ひとつになって陶然とした感動の日でした。

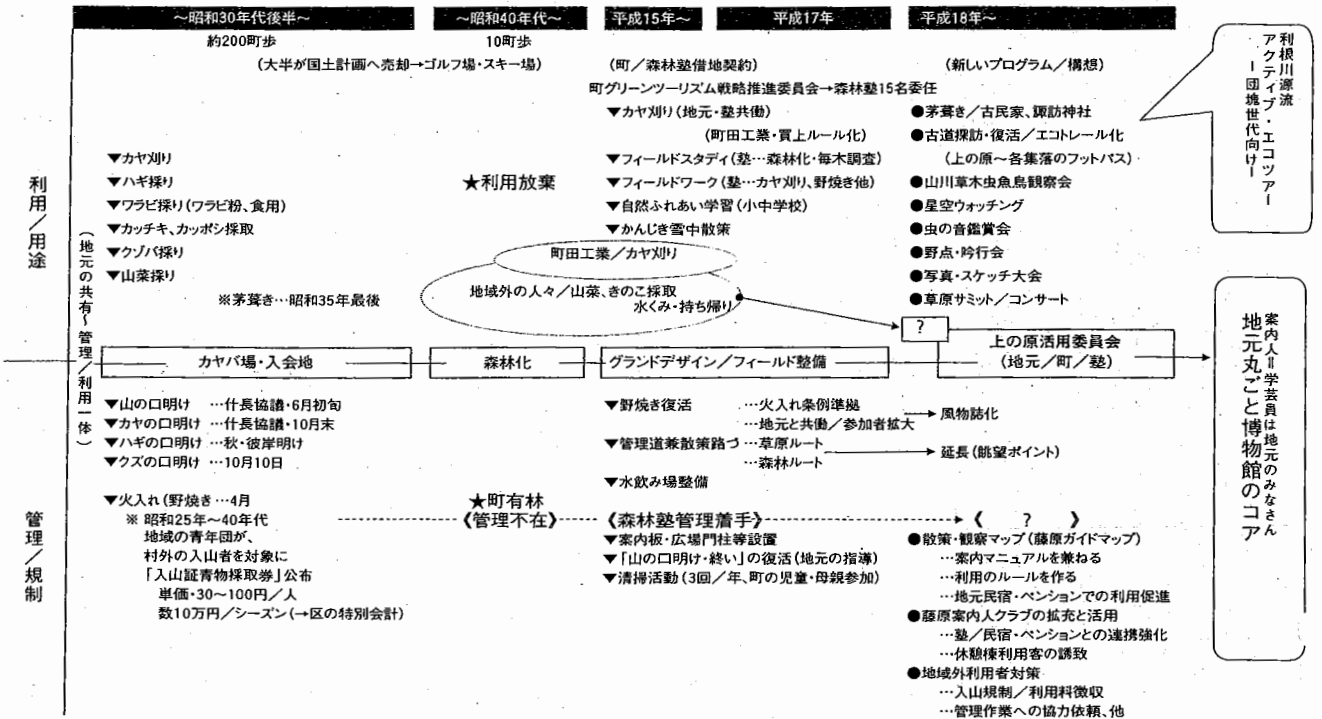
以後毎年、茅刈りも野焼きも地元の人々と共同して続けて3年。当地・藤原の風物詩として定着し、雑木伐採も並行することに

いり あい

(問い合わせ先)

森林塾青水

〒160-0023 新宿区西新宿1-23-7
新宿ファーストウエスト
扶桑レクセル(株) 監査役室気付
TEL 03-3345-1390 FAX 03-3345-2500
E-mail info@commonf.net
URL http://www.commonf.net



よりススキ草原本来の姿を回復しつつあります。また、刈り取ったススキを買い取ってもらい、重要文化財の茅葺屋根材として供給する道筋もつくれることができました。

整備活動としては他に、管理道兼散策路をつくりました。ススキ草原からミズナラ林を回遊し、「柞(ははそ)の泉」や水源の滝にも通ずる全長2km余りの小径、いわば森のセラピー・ロードです。さらに、集合広場を整備し総合案内看板や塾の看板も設置しました。

交流の輪を広げるプログラム

整備管理作業は借受契約上、義務的性格を有していますが、我々は、楽しみながら良い汗をかき、「というモットー通りに活動してきました。もちろん、義務の反対に

権利もあって、それは21haの借地の地上権「コモンズ村・ふじわら」の利用権(入会権)のようなものです。四季折々の、大自然を楽しみながら交流の輪を広げるプログラムの数々を「紹介しましょう。」

メインの講座「コモンズ村・ふじわら」は、春の山の口開け・野焼きから始まって、秋の山の口開け・茅刈り、そして冬の雪中かんじきハイクで終わる7回のフィールドプログラムです。毎回、地元の民宿に泊まり、古老の皆さんのお話を聞いたりしてワイワイガヤガヤ。山菜採りやキノコ鍋を楽しんだり、木馬道など古道の探訪や道普請も始めました。

毎年7月には、小・中学生むけの「里山探検クラブ」「水源の森フィールドスタディ」など自然ふれあい楽習(がくしゅう)プログラムを実施しています。成人向けには、「奥里山のんびりスケッチツアー」「茸狩り・蕎麦打ち体験ツアー」など様々なプランを試みています。

参加者の皆さんに何よりも喜んでいただいているのは、清冽で美味しい水と空気。そして、静寂な森と風にそよぐススキ草原。愛くるしい山野草と群舞するチョウやト

ンボ。エゾハルゼミとモリアオガエルたちの大合唱や野鳥のさえずり、カモシカのため糞に熊の爪跡...等々。要は、ほとんど手つかずの大自然と日本人の心の原風景ともいいうべき奥里山のたたずまいそのものが感動の原点なのです。

集落の山の神(十二神様)のお導きがあつて、元・入会山の「コモンズ村・ふじわら」の入会権を持つに至った森林塾青水。その会員(「村民」)は前述の各種プログラムに優先参加することはもとより、家族や友人を伴って、何時でもこの大自然の恵みを享受できます。現在、村民は60余名ですが、現代版の入会「日本型コモンズ」としては、100名程度が適正規模。地元が所有(共有)し、利用も管理もした昔の入会地と違って、地元(町)が所有するものの利用も管理も都市部の市民団体という現代版入会は、少なすぎても多すぎても持続困難と考えるからです。

ぜひ、あなたも仲間入りして入会権を持ちませんか!!

団塊の世代の皆さんの参画を特に歓迎します。60歳以降のあなたのライフワークにピッタリ。生命の水のふる里が待っています!!